

令和8年度第2回京都市スポーツの絆が生きるまち推進会議 摘録

日時：令和8年9月25日（金）午後1時30分～午後3時15分

会場：分庁舎第5・6会議室

出席：

【委員】松永委員長、長積委員長代理、碓委員、上田委員、武田委員、田中委員、松崎委員、松村委員、森田委員

【事務局】萩原スポーツ担当局長、平井市民スポーツ振興室長、荒木京都マラソン・ワールドマスターズゲームズ担当部長、水谷スポーツ企画課長、中村スポーツ施設課長、村松公民連携型整備推進担当課長、丸山スポーツ活動推進課長、加島京都マラソン推進課長

【関係局】保健福祉局健康長寿のまち・推進室 木下健康長寿企画課長
保健福祉局障害保健福祉推進室 遠藤企画・社会参加推進課長
子ども若者はぐくみ局子ども若者未来部 吉田青少年・若者・まなび担当課長

1 開会

2 委員紹介、委員長挨拶

3 議事

（1）【議事1】次期京都市市民スポーツ振興ビジョン（仮称）中間案について

○説明資料：資料2（事務局）

（長積委員長代理）

- ・ 「施策の方向性」の文中に、スポーツを「触媒」として機能させるとの記載が追記された点は良いと思う。「目指すべき姿」に記された「共につくる」という表現も良いと思うが、「つながる」から「共につくる」への流れをもう少しうまく表現できないか。
- ・ 今の記載内容に基づいて本ビジョンのイメージを図示するのであれば、「する・みる・支える・集う」に「共につくる」の観点も並列されるべきではないか。「つながる」先にあるものが目指すべき姿であるなら、「新しい価値の共創」をもう少し強く打ち出す方が、さらに未来に向かっていくビジョンになるのではないかと思う。
- ・ 今の図では、つくるもの（ゴール）が「居場所・出番・幸福・生きがい」と見えるが、これらを生み出すために何を施策として取り組んでいくのか、という段階が間にあるのではないか。

（松崎委員）

- ・ 国がスポーツ基本法に新たに「集う」「つながる」を追加したことと、それに対する京都市の考え方が少し繋がらないように思うので、どう関係しているのか、分かりやす

く記載している方が良いのではないか。案では、スポーツで「繋がる」が先に記載されているが、その後の展開では、「集う」が先に出てくるため、国の方向性をどう捉えているのか市民には分かりにくいのではないか。

- ・ 漢字の「繋がる」、つながるではなく「つなげる」という表現が混在し、少しぼやっとしている。キーワードをしっかりと置くことは良いと思うので、「つながる」というテーマをどう表現するか深掘りし、工夫したほうが良いのではないかと思う。検討いただきたい。

(事務局)

- ・ 国が「集う」「つながる」を追加したことを市としても意識し、どう取り込んでいくかを考えている。具体的に施策を考える中で「集う」「つながる」は比較的近く、「つながる」にすべての要素が集約されるのではないかと思い、単独での施策展開の検討が難しかった。国は5つの観点を並列しているが、京都市としては、4つの観点を「つなげて・つながる」というところを施策展開とし、単にスポーツということだけでなく、地域コミュニティの活性化や、スポーツを通じて様々な課題を果たしていくということをコンセプトに落としこんでいるところである。

(淀委員)

- ・ 案におけるスポーツの範囲については、「する・みる・支える」それぞれに共通して同じ基準という認識で間違いないか。
- ・ 「集う」には、「する・みる・支える」のすべてが含まれるべきだが、「集う」に設定しようとしている数値目標案では、回答される方は、「する・みる」人に限った数値であり、「する・みる」の数値目標と重複しているため少し質問に語弊があり、矛盾が生じるのではないか。

(事務局)

- ・ 指摘のスポーツの範囲については共通のものと考えているが、あまり意識をしていなかったため定義は検討したい。
- ・ 数値目標については、重複する要素があり明確に区別することが難しいため、「する・みる・支える・集う」それぞれの領域を横断的に考えていく。

(松永委員長)

- ・ 新京都戦略には、スポーツに関する記述は一文しか入っていない。この点は欠かせないとはいえ、図の土台である「地域づくり・健康づくり・人づくり」は並列となっているが、実際は並列ではない。新京都戦略に書いてあるからというだけでなく、キーワードとなる部分はこだわって記載してほしい。

- ・ 全体を通して和暦だけでなく西暦も並べて記載してほしい。
- ・ 松崎委員からもあったが、国は国で、府は府で、市は市ならではのビジョンを策定すべき。新しい計画策定のために調査も行っているのだから、京都市の課題へのアプローチに関しても可視化すべき。

(森田委員)

- ・ 障害者スポーツに携わっているが、障害者の方がスポーツを「する」ためには、「支える」人がいないとできないという場合が多い。大会等の運営面だけではなく、スポーツを行うこと自体に対する個人の身体的な介助を行うかたちでの「支える」人が必要であるという点を踏まえることが重要になるかと思う。
- ・ 市内だけでなく近接するエリアとの連携の部分も大切だと思う。京都市には障害者スポーツセンターがあるが、京都府設置の施設は府下に存在しないため、結果として京都市に集まってこられる方が多い。そうしたことから自治体間を越えて横断的に取り組む意思が記載されている点は良いと思う。
- ・ 「支える」では、京都障害者スポーツ振興会が、府下の大学に対して障害者スポーツの大会等の学生ボランティアの募集依頼を行っている。最近では、高校のボランティア部にも案内しており、手を挙げてくれる生徒もそれなりに存在する。参加してくれた学生に話を聞いてみると、ボランティア活動の場が「集いの場」になっていることを感じる。
- ・ リーディングプロジェクト③には、天皇盃車いす駅伝も加えて欲しい。

(碓委員)

- ・ 委員長からの指摘にもあったが、本計画の主たる対象は「京都市民」であり、そのスタンスがもう少し前面に出てもよいのではないかと。一番手っ取り早いのは京都市民への特典をより明確に打ち出すやり方があると思うが、京都マラソンを例に考えるとすれば、例えばだが京都市民の優先募集といったかたちでメリハリをつけることもやり方としてあるのでは。すべての項目で「京都市民が」の主張を強くするべき。

(松永委員長)

- ・ 「実施率が低い層の底上げ」とあるが、その層は京都市民では具体的にどこを指すのか、京都市としての課題の部分を、調査結果を元に記載して欲しい。
- ・ 各施策の説明部分にも、それぞれ京都市の課題を追加してもらいたい。

(松崎委員)

- ・ 本年は5年に一度の社会生活基本調査が行われる年だが、本調査の項目にもスポーツに関連するものが含まれるので、スポーツを行った時間などは国との比較を行うので

あれば利用できるのではないか。

(松村委員)

- ・ 体育振興会は、地域スポーツの取組を進める上で担い手としての役割が期待されていると思うが、参加者は減ってきている状況である。9月1日に開催した理事会で体育振興会の規約と目的が改正され、誰もが楽しめるスポーツの普及や地域住民が集い、交流し、地域コミュニティの活性化や健康づくりに寄与することを目的とするという項目が追加された。担い手不足など課題はあるが今後も時代の変化も踏まえながら柔軟に対応していきたいと思っている。
- ・ 体育振興会は各学区単位での活動であるため、「集う・つながる」部分が希薄。そういう部分で学区体育振興会に対する期待が薄まっている部分もあるのかもしれない。色々な垣根を越えて「集う」ことで、地域コミュニティの活性化、防災・共助に繋がっていけばよいのではないかと考えている。

(武田委員)

- ・ 市スポーツ協会としては、指定管理者として管理している各施設を人々のコミュニケーションの場・繋がり場として発展させていく新しいコンセプトの具現化に挑戦していくことにしている。大前提として、スポーツ行政は任意行政であるため、税金を充てて市民に対してスポーツ振興やスポーツ環境を提供し、整えていくためのビジョンでなければならない。
- ・ 「支える・集う」という概念は多岐に跨るものであるため、どこまでをスポーツの領域として取り扱うことが適当なのか判断するのが難しい面がある。例えば小さなお子さんがいる母親はスポーツする機会が少ないという課題に対応するには、お子さんを預ける場所が必要となる場合もあり、それにはスポーツの領域を越えて保育分野の施策対応が求められることとなるわけで、そうした点からも、どこまでをスポーツ施策のターゲットとするかという境界線が必要ではないかと思う。そういった意味合いから「支える・集う・つながる」の各領域の境界線がぼんやりしてしまうわけで、本案で示されたように「集う」という言葉の中に「つながる」という要素が含まれるかたちになってしまっていることも理解できるかと思う。
- ・ 現行計画の後継を「計画」ではなく「ビジョン」とすることについてだが、本案の中身を見ると、具体的な計画というよりも目標や方向性といった書き方にとどめている部分が多いため、ビジョンというかたちで策定するというイメージを持つことができ、違和感はない。
- ・ 「市域に近接するエリアとの連携」は新しくて良いと思った。但し、この点に関しては、周りに頼るという意味ではなく、京都市が隣接する市町との関係性においてリーダーシップを発揮していくような連携であることを願うところである。

- ・ ウェルビーイングの説明書きの※だが、「健康」という言葉を入れて良いのではと思った。
- ・ 次期ビジョンにおける e スポーツの定義に関して、「リアルスポーツの振興につながる e スポーツの活用」とされたことは良い表現かと思う。単にゲーム性の高いものをスポーツの範疇で語ることに違和感はあるが、e テコンドーのようにフィジカルと組み合わせたもので、競技スポーツの振興にも繋がるものを振興の対象として捉えるという考え方はなるほどと思った。

(松永委員長)

- ・ 子どもがいる人のスポーツについては、働き盛りや育児期間中の方々がスポーツをするための環境を整えることを、する施策②に追記してもらいたい。
- ・ 施設整備については財源の課題等はあることは承知しているが、京都市が市民のために考えているということを主張していかなければいけない。

(田中委員)

- ・ 9 月 12 日に開催された武道フェスタを視察したが、複数の武道系のスポーツを体験できるイベントとなっていた。家族連れで来られるイベントは、子どもがスポーツを「する」きっかけになることはもとより、親が体験する機会にもなり、人々が「集う」場としても必要だと感じた。競技単位の大会だけでなく、こういったイベントが実施でき、広がっていけば、スポーツに入るきっかけも増えるのではないかと期待する。

(上田委員)

- ・ 国スポの見直し議論が進められているが、その中のキーワードの一つに「祝祭性」という言葉が出てきている。いわゆるパリ五輪で表現されたお祭り感がイメージされており、近所の人が気軽に競技会に参加してくるような雰囲気にしていきたいとの思いが込められているようで、そういったものも取り入れられたらと思う。
- ・ リーディングプロジェクトに京都マラソンの記述があるが、これから先も継続され 20 周年などの周年イベントに関しても記述されてはどうかと思う。

(松永委員長)

- ・ スポーツをやりに来てください、という単なる声掛けだけでは人は集まらないので、普段やらないようなところでスポーツをするきっかけを作るという意味合いで、「祝祭性」はキーワードになるかも知れない。

(長積委員長代理)

- ・ 冒頭に述べたように、スポーツが異分野をつないだり結んだりする触媒になりましょ

うと書いてあり斬新だと思ったが、(9)に記載している施策と掲げる理念に乖離があると感じる。施策で掲げられていることは、従来のスポーツの振興に関わることばかりになっており、施策の新しさとかコンセプトの新しさが反映できていないのではないか。例えば、リーディングプロジェクトも結局、既存のスポーツ政策上の課題に対応することに重きが置かれているが、この部分は他分野と共創して社会課題を解決していくということを位置付けられないものか。

- ・ 「集う」という言葉のイメージが分かりにくい。数値目標で、「集う」で達成されなければならないものは、どんな人が集うのか、どのような集わせ方をしたいのかどうか、といったことが表現されていない。
- ・ どうしてもこれまでの行政施策は、「する・みる・支える・集う」を並列で考えているが、やはり並列ではなく別の表現とすべきではないかと思う。スポーツと人との接点となるステージ、その次に関係構築をしていく、つまり「つながる」というステージがあって、その「つながる」ステージの後に、「共創する」というステージがあるというイメージ。我々が成しえたいと考えているところは、ステージが段階的にあって、接点を持って関係を持って共創していくつというような、そういう形で施策を考える方が、未来志向的に書けるのではないかと感じる。

(松永委員長)

- ・ スポーツ好きな人は勝手にする。調査で判明した「そうではない人たち」へのアプローチという点では、スポーツの分野だけでは対応できないため、一見スポーツと関係ない部署と一緒にやっていかないといけないが、現在の案ではそれが弱い。京都市らしさがなく、どこにでもありそうなビジョンになっている。京都市ならではの課題を解決するためのビジョンであることをもう少し出していくべき。

(松崎委員)

- ・ アスリートのセカンドキャリア支援が「支える」で記載されているが、スポーツに打ち込んでいる人は、プロになる人もいるが、一般人としてスポーツ関連をはじめとする様々な分野の仕事をする人が多数である。アスリートを目指す人たちが将来を心配せずにスポーツに打ち込めるように、スポーツに打ち込んできた人たちの積極的に採用するような企業、仕組みがあれば、スポーツ人口は飛躍的に伸びるのではないか。京都市には多くの企業があるので、そういった仕組みを京都市でモデルパターンの構築などできたらよいのではないか。

(松永委員長)

- ・ 最後に、これまで振興計画の名称で策定してきた推進プランについて、今回の改定を機に「振興ビジョン」に変更することに関して、特に異論はないということによろしい

か。

→委員意見なし。

4 閉会